

大館市史に載る30戸以上の消失火災年表

西 暦	年 号	月 日	出火場所	記 録
1640	寛永17年	2.24	中 城	御城内町、外町寺院とも約300戸焼火
1661	寛文元年	不明		御城内町、外町500戸消失
1675	延宝3年	4.27	大 町	大町および田町70戸焼失
1676	延宝4年	4.24	中 城	中町、長倉町、新町、柳町、大工町大町(荒町)、寺道、馬喰町、風呂屋町など大館総人家の9割焼失、寺院の過半数を焼く
1679	延宝7年	3.22	十二所	十二所大火
1738	元文3年	3.4	十二所	十二所大火、427戸焼失
		11.3	大工町	柳町、新町、中町、風呂屋町、馬喰町全焼、大町は東側のみ焼失 3割を焼く、400戸焼失
1743	寛保3年	3.13	鍛冶町	鍛冶町、足軽町全焼、大町3分の1、新町3分の2、浄応寺、連荘寺とも合計89戸焼失
1746	延享3年	4.27	大 町	大町、馬喰町、中町、新町、柳町、大工町、鍛冶町、寺道など300と焼失
1757	宝暦7年	3.20	釈迦内	48戸焼失
1769	明和6年	4.23	馬喰町	馬喰町、中町、柳町、大工町全焼、新町は半数焼失、400戸焼失
1806	文化3年	4.21	中 町	中町、柳町、大工町、新町、馬喰町、大町、寺道全焼、宗福寺、玉林寺、浄応寺、連荘寺、など300戸、土蔵21棟焼失、焼死者3人
1811	文化8年	3月	十二所町	84棟焼失
1858	安政8年	8.26	十二所町	32棟焼失
1861	文久元年	3.25	二井田村	109棟焼失
1865	慶応元年	9.6	松峰村	37棟焼失
1868	慶応4年	3.3	二井田村	50棟焼失
		8.9	十二所村	400棟焼失(戊辰戦争)
1870	明治3年	4.26	足軽町	足軽町、新町、大町、中町、馬喰町、風呂場町、大工町、鍛冶町、柳町など350戸焼失
		9.26	足軽町	足軽町、大町など約270棟焼失
1919	大正8年	5.27	中 町	中町、馬喰町、柳町、大工町、鍛冶町、大町、寺道、風呂屋町など550戸焼失、損害1,294,515円、放火説もある。
1930	昭和5年	3.25	花岡町	147戸焼失
1932	昭和7年	5.21	南新道	60戸焼失、死者2名、損害180,000円
1934	昭和9年	9.5	弁天町	新富町、新開地120戸焼失、損害400,000円
1938	昭和13年	4.30	矢立村陣場	70世帯のうち62世帯罹災
1940	昭和15年	5.25	閑居町	45戸全焼、損害122,960円
1948	昭和23年	5.8	岩 瀬	91戸焼失
		5.10	山 田	住家108棟、非住家168棟焼失
		6.2	清水町	69戸焼失、損害4,692,950円
1953	昭和28年	4.29	馬喰町	南南西の風15mの強風に煽られ、火炎は刻々と拡大し、同町一角をなめつくし、益々風速加わり、最大20mの風速に達し、風向は再転南西と変わり官公庁街に延焼す、公立大館病院、郵便局、電報電波局、北鹿新聞社、商工会議所、信用組合、旅館、事務所、住家等137焼失
1955	昭和30年	6.14	下代野	住家33棟、非住家29棟焼失
1956	昭和31年	5.3	二本杉下	連日の乾燥と13mの北東の強風に煽られ一瞬にして火の海と化し、国鉄大館駅をはじめ、小坂線、大館駅、工場、旅館、映画館、一般住家等508棟焼失、損害710,572,000円

1962	昭和37年	8.18	東大館駅前	通報の遅延と水利の便悪く、あわせて付近一帯は腐朽木造建築、桎屋根 多くまた、油類1,300リットルに延焼、一瞬にして火の海となり市の中心街に 延焼、650棟を焼失、焼失世帯770、損害額4,022,000,000円に達す
		5.7	川口	南西の風9.5mの強風に煽られ、火は村落の密集地域を一瞬にして猛火に 包み30分弱にして50棟を灰じんと化してしまった。当日は火災警報下にあり、 村落は農家が密集し、わらぶき屋根に飛び火し、水利不足もあわせ大きな損 害となった。損害額20,340,300円
		6.16	沼館	西の風9mの強風に煽られ、火は村落の中心部へ、猛烈な勢いで迫った。 また、飛び火は随所に火点を作り一瞬にして36棟を焼いた。 損害12,123,700円
1968	昭和43年	10.12	御成町二丁目	西南西の風7mの強風に煽られ、火は密集地帯を一瞬にして猛火に包み約 3時間にわたって約290棟を焼失、罹災世帯248世帯におよんだ。 損害1,203,268,000円